

## アラビア語書籍の流通事情（ライブラリ・コーナー）

著者	高橋 理枝
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	256
ページ	71-71
発行年	2017-01
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://doi.org/10.20561/00048575">http://doi.org/10.20561/00048575</a>

## アラビア語書籍の流通事情

高橋理枝

アラブ連盟加盟国二二カ国、人口約三億九〇〇万人。これらの国々でアラビア語書籍が国境を越えて流通していると考えるのは、そうおかしな話ではないだろう。筆者は当初エジプトに行けばアラブ各国の書籍が買えると思っていた。しかしこれは未だ幻想にすぎず、アラビア語書籍の流通範囲は驚くほど狭い。書店では当該国の書籍以外では、エジプトとレバノンの書籍をみかける程度だ。二〇〇五年にエジプトの出版者 Kobabaha が行った調査によると、調査した一五〇タイトルのうち、約八〇%が出版社または著者の自宅から半径五キロ以内にしか存在しなかったという。

アラブの書籍市場が国毎に分断されておりスケールメリットを活かせていないことは、出版業界ではたびたび指摘されている。アラブ諸国では政府や出版協会が出版統計をとっていないため、UNESCOの *Statistical Yearbook* が一九九九年で停刊して以来、出版点数を把握するのはかなり難しくなった。推計によるとアラブ全体で年間の新刊タイトルは約一万五〇〇〇点とされ、アラブの二大拠点とされるレバノンでも年間約三〇〇〇点(タイトル数、以下同様)、エジプトは年間三〇〇〇

点とも七〇〇〇点ともいわれる(納本図書館であるエジプト国立図書館のウェブサイトに納本リストがあるが、うまく閲覧できず数値がとれない)。ちなみに中東の非アラブ諸国では出版統計が公表されており、イランは約七万三〇〇〇点(二〇一四/二〇一五年)、トルコは約四万七〇〇〇点(二〇一三年、初版タイトルのみ)、イスラエルは八三三八点(二〇一三年)である(日本の新刊出版点数は約八万点(二〇一五年))。もちろんアラブ諸国といっても富裕な産油国から低開発なイエメンまで、国によって経済・社会状況は異なり、購買力や識字率にも大きな開きがある。フランクフルト・ブックフェアの報告では、レバノンの Dar al-Adab 書店の社長の言葉を引いてアラブの書籍市場が直面する最大の問題は市場が閉じていることだとし、シリアは重要な市場だが現在閉鎖されており、リビア、スーダン、イラクは出版産業に対して市場が開放されたことがない。エジプトは購買力が低く、レバノンは市場が非常に小さい。湾岸諸国は女性の読者が多いことも含め重要な市場だが検閲が厳しい」と、まとめている。

検閲は、流通のみならず出版活動自体を阻害する大きな障壁として、

立ちはだかっている。出版、販売、国内外への持込み/持出し(商業用かどうかを問わず)といった場面で公式・非公式な検閲が存在する。「冒流的」、「ポルノ的」、「反体的」なものが共通したタブーだが、何が「冒流的」なのか等に関する検閲の基準は国によって異なる(国境や郵便局の職員が独断で決める場合もあり「人によって異なる」といった方が正確かもしれない)。このため、アラビア語書籍を多くの国で流通させるには、異なる検閲基準をクリアする必要がある。児童書については、重要な市場であるサウジアラビアの

厳しい検閲基準に合わせて編集され、流通の拡大が図られているようだが、他のジャンルでは難しいのが現実だ。しかし、こうした障壁を乗り越える機会がないわけではない。現時点での最大のチャンスは、国際ブックフェアだ。アラブ諸国はそれぞれ年に一回程度国際ブックフェアを開催しており、この時は通常の輸入とは異なる検閲基準が適用される。このため、発禁本が販売されることもある。書店にとっても読者にとっても流通と検閲の壁を越えて書籍に触れる新たな機会となっている。また湾岸諸国を中心に展開する大型書店チェーンや、オンライン書店も、今後国境を越えた流通を促進させていくと思われる。中東でもレバノンの neel wa furat をはじめとするオンライン書店が事業を拡大して

いる(ちなみに電子書籍は検閲の対象だが、オンライン書店から個人に郵送される書籍は検閲の対象外との情報もある)。アラビア語電子書籍の普及には、いまだ問題も多く(アラビア文字に由来する技術的な問題、海賊版の氾濫とそれを阻止する法律や技術の不十分さ、タブレット端末やクレジットカードが浸透していないこと等)、普及にはまだ時間がかかりそうだ。とはいえ、「知識社会」への移行を目指して出版産業に力を入れる湾岸諸国や、SNSを使いなす若い世代を中心に利用は拡大していくと思われる。

電子書籍では、紙の書籍の売れ筋(①宗教書、②小説、③児童書)とはちょっと毛色の違う書籍(政府批判や地域の宗教紛争を議論するもの等)も読まれるという指摘もある。IT技術の発展が、アラビア語書籍の流通と読書のあり様をどう変えていくのか、興味が湧くところである。(たかはし りえ/アジア経済研究所 図書館)

## 《参考文献およびウェブサイト》

- ① 『情報の科学と技術』 Vol.66 No.1、二〇一六年。
- ② <http://www.buchmesse.de/en/international/book-markets/>
- ③ Kulesz, Octavio, *Digital Publishing in Developing Countries*, 2011 ([http://alliance-lab.org/etude/wp-content/uploads/digital\\_publishing.pdf](http://alliance-lab.org/etude/wp-content/uploads/digital_publishing.pdf)).